

# 戦争と非人道的医学研究 —戦後における反省をはばむもの—

ZOOM併催ゲノム問題検討会議特別企画セミナー  
西山 勝夫 問合せ先は[こちら](#)

2026年9月26日13:30～16:30

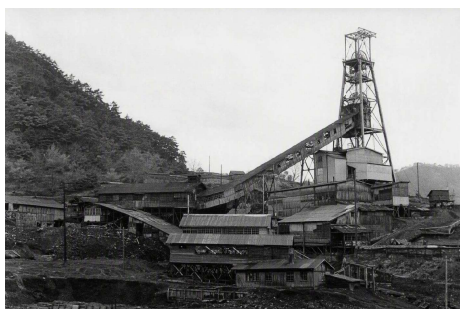
東京都江戸東京博物館

(注: [Abcd](#) をクリックするとセクションにジャンプ、下線文字をクリックするとリンク先にジャンプ)

## 私の研究の出発点

1963年

三井三池炭鉱炭塵爆発事故



最新技術を導入した  
「合理化」の象徴的炭鉱

※三川鉱を想起させる生成イメージ

資料：大牟田市「大牟田のあゆみ」／明治日本の産業革命遺産「三池」

学生(工学部)時代の関心

「科学と平和」

↓  
三池炭鉱事故に衝撃

↓  
なぜ最新技術が  
人々のいのち・健康を  
守れなかったのか

私の問い

- ⚙ 科学や技術は誰のためにあるのか
- 🧑 科学者や技術者の社会的責任とは何か
- 👤 労働者のいのち・健康は守られているのか

↓  
労働衛生学者へ

「科学・技術と労働者のいのち・健康との関係を問い続けること」  
これが私の研究の原点となった

# 「戦争と医学医療」研究へ

問題意識の展開



労働衛生学  
研究・教育・  
社会活動



?

医学医療は戦争と  
どのような関係にあったのか

主な活動



1995年頃～

医師団体による  
問題提起

戦争と医学医療に関  
する  
問題提起



1998年

日本産業衛生学会  
創立70周年事業

労働衛生学の歴史から  
戦争加担を検証する  
必要性を認識



2000年

「15年戦争と日本の  
医学医療研究会」

戦医研  
設立に参加



2006年

「戦争と医の倫理」の  
検証を進める会

進める会  
設立に参加



現在

戦争と医学の  
歴史と倫理の検証

検証を継続

西山勝夫: 15年戦争と日本の医学医療研究会20年のあゆみ—成果と課題, 戦争と医学, 23, 2023.

「私たち」とは

本日「私たち」と申し上げる場合は、戦医研、および

「戦争と医の倫理」の検証を進める会における研究・活動を踏まえたものです。

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

03

## 本講演での「反省」の捉え方

1 医学医療が戦争遂行に加担した  
事実を明らかにする

2 何が起きたのか、被害の実態を  
明らかにする

3 そこに至る経過・過程を明らか  
にする

4 謝罪や被害者への対応を検証す  
る

5 二度と繰り返さないために何が  
必要かを明らかにする

6 現在と未来に伝える経験と教訓  
を明らかにする

こうしたことを一つひとつ確かめ、

経験と教訓を現在と未来に生かしていく営みを、

本講演では「反省」と呼ぶことにします。

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

04

# 本日の問い

本日、私が皆さんと一緒に考えたい問いは次の5点です。

## 1 どこまで史実の認定と解明が進んだのか

- ・医学医療の戦争加担の実態とは何か
- ・どのように非人道的医学研究に至ったのか

## 2 どのように非人道的医学研究の反省は進められてきたのか

## 3 何により反省ははばまれたのか

## 4 何が反省の前進を可能にしたのか

## 5 今後の課題は何か

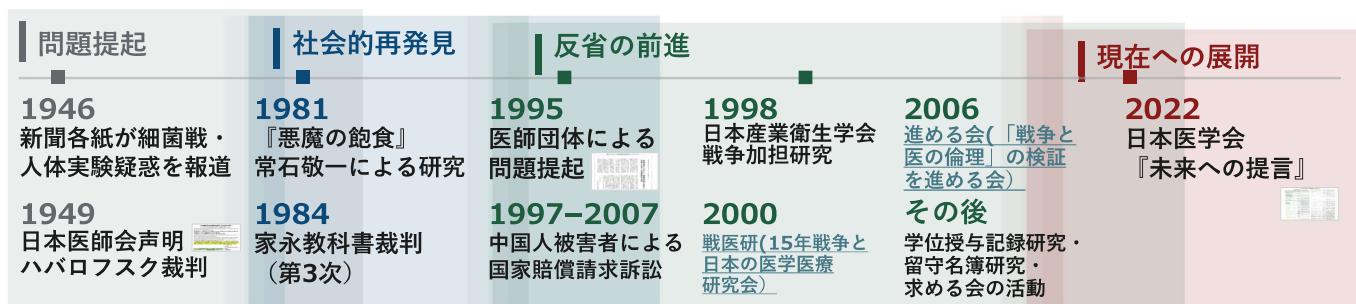
西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

05

## 戦後80年の反省の歩み(試案)

反省はどのように進んできたのか

※ 各局面は明確に区切られず、重なりながら展開した



ディキンソン: バイオハザード 七三一部隊と戦後日本の国民的『忘れやすさ』の政治学, 悪夢の医療史, 2007.

スヴェン: 戦後の日本とドイツにおける「過去の克服」, 日本の科学者48, 2013.



戦後80年の歴史は、「忘却（忘れやすさ、記憶喪失）」の歴史でも、一直線の前進の歴史でもない  
前進と停滞が繰り返された歴史である

本日の視点

何が反省をはばんだのか

何が反省の前進を可能にしたのか

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

06

# 医学医療の戦争加担を自ら反省する意義

## 提起された疑問

- 1 医学医療界自身に戦争加担の解明・反省ができるのか
- 2 医学医療の問題だけを扱うことに意味があるのか
- 3 より古い侵略戦争まで対象を広げるべきではないか

## 私たちの問題意識

医学医療は古代より命と尊厳を守る特有の使命を負うと言われてきた。その医学医療が「非人道的医学研究」を自ら防げなかったとすれば、他の学術分野における歯止めもまた難しいのではないか。

### 1 「医学医療に期待される使命」

命と健康を守る | 傷病者を救い治療する  
苦痛を軽減する | 人間の尊厳を守る

### 2 戦時下で求められた役割

健兵・健民 | 戦闘能力の増進 | 継戦能力の維持  
軍事医学研究 | 細菌戦研究 | 侵略政策・宣撫政策への協力

### 3 その行き着く先 非人道的医学研究

731部隊問題

### 4 医学医療自らが担う「反省」

事実と過程を明らかにする

なぜ止めることができなかったのか  
そのことはどう反省されたのか

私たちは、「何が起きたか」だけでなく、医学医療界の内部からなぜ歯止めがかからなかったのかを自ら問うこととした。

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

07

## なぜ非人道的医学研究なのか

### 731部隊問題から見てきたこと

#### 医学医療の使命が問われている

- 今日の医学医療の使命に照らせば真逆の出来事であった
- 人の命と尊厳を守るべき医学が非人道的医学研究に至った

#### 731部隊だけの問題ではない

- 医学医療の戦争加担全体と深く結びついていた
  - 国家・軍・大学・医学医療界など広範な関与が存在した
- 国家 | 軍 | 大学 | 医学医療界

#### 複数の問題が交錯していた

非人道的医学研究  
細菌戦  
医学博士の学位授与  
軍医活動

## 到達した認識

非人道的医学研究・731部隊問題の解明と反省は  
日本の医学医療の戦争加担全体を考えるうえで  
重要な手がかりを与えてきた

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

08

# 戦争と医学医療の反省によって明らかになったこと

何が明らかになったのか

## これまでの反省と研究の到達点

- 1 医学医療は侵略戦争遂行の一翼を担った
- 2 戦争加担は組織的に進められた
- 3 その枠組みの中で、非人道的医学研究は正当化を伴って推進された



## 関与した主体

軍医学校    大学医学部    医学会    医師会

相互に結びつきながら推進

## 行き着いた先

非人道的医学研究    731部隊    細菌戦

ここまでの反省から見えてきたこと

731部隊だけの問題ではない

一部の医師・医学者だけの問題ではない

本講演の視点    戦争と医学医療の問題を、個人の問題としてではなく  
日本の医学医療全体の歴史として考える

09

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

# 反省はどのように進まなかったのか

## 戦後80年で解明されたこと

- ✓ 医学医療は侵略戦争遂行の一翼を担った
- ✓ 戦争加担は組織的に進められた
- ✓ 非人道的医学研究はその枠組みの中で推進された

## しかし

戦後80年を経ても なお十分に解明されたとはいえない

## 残された問い

- 1 非人道的医学研究にまでどのようにして至ったのか
- 2 国家理念（皇国史観）や社会状況はどのように作用したのか
- 3 戦後の反省はどのように進まなかったのか



本日の問題意識    何が反省をはばんできたのか  
そして    何が反省の前進を可能にしたのか

次に考えたいこと    反省の歩みの中で、私たちはどのような壁に  
直面してきたのか

10

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

# 反省はどのようににはばまれてきたのか

反省の歩みの中で直面した困難 — 本日はその一部に触れる —

| 研究・史料の壁                                                                                               | 理解・認識の壁                                                                    | 組織・制度の壁                                                                                                          | 国を越える壁                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 問題として受け止められにくい壁</li><li>② 史料の壁</li><li>③ 証言の壁</li></ul>       | <ul style="list-style-type: none"><li>④ 理解の壁</li><li>⑤ 記憶と歴史認識の壁</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>⑥ 組織の壁</li><li>⑦ 科学的合理性の壁</li><li>⑧ 国会・行政・司法の壁</li><li>⑫ 遺族・親族の壁</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>⑨ 国家間の壁</li><li>⑩ 被害者と加害者の壁</li><li>⑪ 言語の壁</li></ul> |
| 社会的圧力と忘却の壁                                                                                            |                                                                            |                                                                                                                  |                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"><li>⑬ ウソ呼ばわり・誹謗中傷の壁</li><li>⑭ 見えない圧力の壁</li><li>⑮ 忘却させる力の壁</li></ul> |                                                                            |                                                                                                                  |                                                                                            |
| 研究基盤 人手・資金・多忙・証言者と研究者の高齢化（寿命の壁）・研究協力                                                                  |                                                                            |                                                                                                                  |                                                                                            |
| 見えてきたこと<br>反省をはばんだものは一つではない<br>複数の壁が重なり合って存在していた                                                      |                                                                            |                                                                                                                  |                                                                                            |

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

11

## 731部隊関係者の医学博士の学位授与の研究

学位授与記録研究から見た壁

### 出発点

731部隊関係者  
約30名の学位論文  
調査を開始

学位論文から  
学位授与過程へ  
調査対象が広  
がった

### 直面した壁

- 1 史料の壁 学位授与記録の所在が  
広く知られていなかった
- 2 理解の壁 学位授与過程そのものが  
研究課題とみなされていなかった
- 3 組織の壁 大学は関連史料を所蔵していたが  
学位授与過程の検証は  
行われてこなかった
- 4 制度の壁 史料の保存・公開・利用には  
様々な制約があった

### 確認できた史料

- ✓ 論文目録
- ✓ 履歴書
- ✓ 審査要旨書
- ✓ 学位記申請書・受領書
- ✓ 教授会審査結果
- ✓ 文部省との往復文書 など

見えてきたこと 重要な史料は存在していた しかし 十分な検証は行われてこなかった

この事例が示すもの史料は存在していた。では、なぜ検証されなかったのか

反省をはばんだのは、史料の欠如だけではない

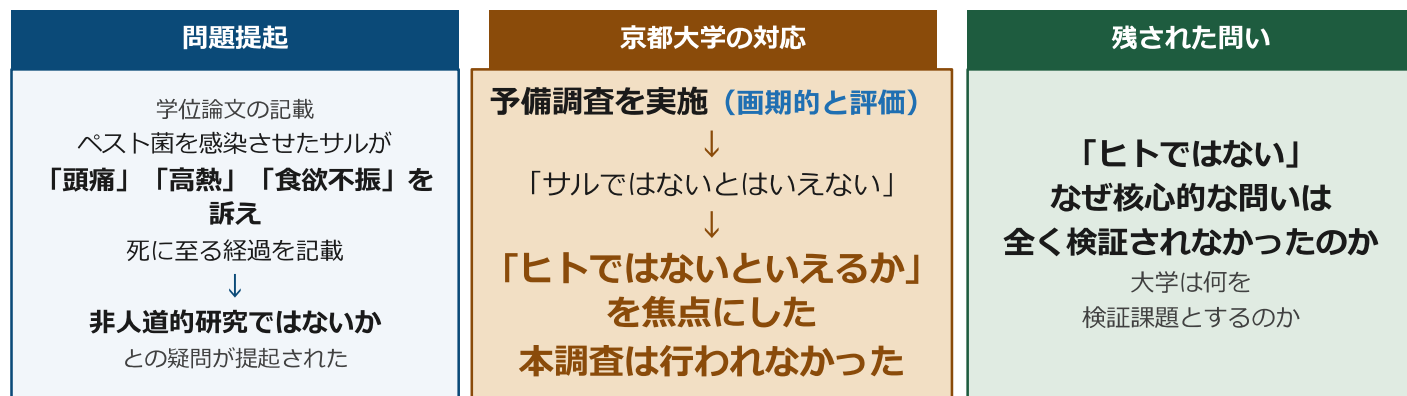
西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

12

# 「『サル』はヒトではない」が問われる論文への学位授与問題



科学的合理性の壁はどこにあったのか

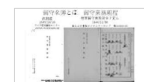


見えてきたこと  
問題は非人道的研究の疑いだけではない  
本来行うべき検証がなぜ行われなかったのかである

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

13

## 留守名簿研究



— 公開・利用・分析・解釈の壁 —

### 研究の出発点

731部隊軍医将校らの  
学位授与問題を検証

↓  
国立公文書館で  
『留守名簿  
関東軍防疫給水部』  
をはじめ  
約70の  
防疫給水部隊の  
『留守名簿』を確認

### 直面した壁

- 1 史料の壁 所在や利用方法が不明
- 2 公開の壁 閲覧・公開に制限
- 3 分析の壁 同一人物に最大6種類もの氏名表記  
名寄せと重複整理が必要
- 4 解釈の壁 戦後作成・補修された名簿も存在  
作成年月日の確定が容易でない
- 5 記録の限界の壁 部隊内の支部/班の所属が不記載  
731部隊員かどうかは判定不能

### それでも可能になったこと

- ✓ 入手した『留守名簿』等の公開
- ✓ 実名・本籍・階級・編入年月日・  
前所属の確認
- ✓ 各部隊の構成の検討
- ✓ 学位授与歴による履歴調査を促進  
軍医・技師・その他将校は  
学位授与調査に着手

見えてきたこと 重要な史料は存在していた 史料が存在すること  
しかし 研究が進むことは同じではない

この事例が示すもの 公開・利用・分析・解釈の壁も、反省と解明を困難にしてきた

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究—戦後における反省をはばむもの—, 2026年9月26日

14

# 2022年 日本医学会『未来への提言』の画期性






**1. 医療倫理・研究倫理に関する日本医学会の立脚点**  
—過去の過ちに学ぶ—

- ▶ 医学・医療の名において、**人間の尊厳・人権の尊重**が蹂躪され、人々に大きな犠牲を強いた過去を持つ
- ・戦時中に七三一部隊で中国人やロシア人等を対象とした非人道的な人体実験（当時の日本の医学界をリードしていた大学教授たちが多く参加していた事実）
- ・ハンセン病患者に対する強制隔離や優生手術
- ・薬害エイズ事件
- ・「旧優生保護法」に象徴される生命倫理原則や基本的人権、インフォームド・コンセントの蹂躪

▶ 私たちは、こうした過去の過ちに学び、将来にわたって非倫理的な状況が再び起こることのないよう、私たち自身の倫理を確固たるものとし、時には流れに抗うことも医学に携わる者の責務であることを改めて認識する

日本医学会創立120周年記念事業 ～日本近代医学創成から120年とこれからの120年～

**日本医学会創立120周年記念事業**  
～日本近代医学創成から120年とこれからの120年～

出典: 日本医学会創立 120 周年記念事業シンポジウムビデオ（該当箇所）

**私たちの評価**

**戦後80年に及ぶ反省の歩みにおいて画期をなす**

**日本医学会が初めて医学医療界の戦中の過ちを認め二度と繰り返さないことを表明した**

※日本医学会: 145の医学系学会が加盟する日本最大級の医学系統合学術団体（日本医師会の学術組織）

**画期をなすものとする ーただしその意味は今後の検証のなかで明らかになるー**

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究ー戦後における反省をはばむものー, 2026年9月26日

15

## 『未来への提言』から見えてきたこと

画期の先に問われていること

| 共有                                                                                                                                         | 社会化                                                                                                                                                                                      | 具体化                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>『未来への提言』の内容は医学医療界全体に共有されているだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各医学会</li> <li>・各大学</li> <li>・医療者</li> <li>・医学研究者</li> </ul> | <p>医学医療界が認めた過去の過ちは広く共有されているだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民との対話</li> <li>・歴史教育への反映</li> <li>・メディアへの反映</li> <li>・国会・政府・自治体などへの反映</li> <li>・被害国・被害者などとの国際的共有</li> </ul> | <p>認識は検証と行動に結びついているだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学は何を検証するのか</li> <li>・各医学部は何を検証するのか</li> <li>・各学会は何を検証するのか</li> <li>・国会・政府は何を検証するのか</li> <li>・公的な歴史検証の仕組みはあるのか</li> </ul> |

**現在問われていること** 『未来への提言』は「必要な時には流れに抗うことも医学に携わる者の責務」と述べたでは **安全保障技術研究推進制度などへの応募による医学医療の新たな軍事研究への加担にどう抗うのか**

**問われていること** 『未来への提言』は **どこまで共有され どこまで社会化され どこまで具体化されているのか**

**示された認識** 『未来への提言』は医学医療界において画期をなす  
しかし  
その意味と実践が、  
今あらためて問われるのではないか

西山勝夫: 戦争と非人道的医学研究ー戦後における反省をはばむものー, 2026年9月26日

16

## おわりに

### 戦後80年の反省の歩み

#### 生み出した成果

- ・医学医療の戦争加担の解明
- ・非人道的医学研究の解明
- ・様々な歴史的事実と経過が明らかになった

### 反省をはばんだもの

- ・史料の壁
- ・組織の壁
- ・科学的合理性の壁
- ・制度・司法の壁
- ・国家間の壁
- ・記憶と歴史認識の壁

### 提言が示したこと

- ・日本医学会は医学医療界の戦中の過ちを認めた
- ・二度と繰り返さないことを表明した
- ・「必要な時には流れに抗うことも医学に携わる者の責務」とした

### 現在問われていること

- ・『未来への提言』はどこまで共有されているのか
- ・『未来への提言』はどこまで社会化されているのか
- ・『未来への提言』はどこまで具体化されているのか
- ・各大学・各医学部・各学会・国会・政府は何を検証するのか

『未来への提言』は戦後80年の反省の歩みにおいて画期をなすものである  
ただしその意味は 今後の検証のなかで明らかになる  
日本は今 安全保障技術研究推進制度などを通じた  
医学医療の新たな軍事研究への加担に どう抗うのか



討論の論点 ①共有 ②社会化 ③具体化 ④新たな軍事研究への加担 — ご一緒に考えたいと思います

## 参考資料

討論時のスライドズーム用 — 学位授与記録研究／学位授与の検証／留守名簿研究／安全保障技術研究推進制度/その他